

明法云

明法云

陶村人馬五分本里江好月後設有刻

年  
音

行  
音

活字書局の書籍をよむ

右の書は新報時局

盛綱の著しつゝ外書を

りしり下は有村集

久米の著しつゝ外書を

よむらん文と書とを

一。よむる書は月日下

似々所産佐野

高倉は細有佐佐

流しと書とを

一。よむる書は月日下

二。よむる書は月日下

三。よむる書は月日下

右の書は佐野

高倉の著しつゝ

一。よむる書は月日下

右の書は佐野

高倉の著しつゝ

流しと書とを

一 沛江東のち北江のよき

石

石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版  
石版の石版の石版

一 石版の石版の石版

一 石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

一 石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

石版の石版の石版

一 此書乃大徳寺の古本  
一 弟七行の古本也

大徳寺に在る古本  
の成法有はるる  
大徳寺

一 此書乃大徳寺の古本

大徳寺の古本  
古本乃大徳寺  
の古本也

一 果七もらぬかた

大徳寺の古本  
の古本也  
大徳寺の古本  
の古本也

一 此書乃大徳寺の古本

大徳寺の古本  
の古本也  
大徳寺の古本  
の古本也

一 弟を討つ

一 弟を討つ

大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日

一 弟を討つ

大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日

一 弟を討つ

大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日

一 弟を討つ

大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日  
大正十一年四月廿一日

一 弟を討つ

一〇 〇

大正十一年一月  
大正十一年一月

一〇 〇

一〇 〇

大正十一年一月  
大正十一年一月

一〇 〇

大正十一年一月  
大正十一年一月

一〇 〇

大正十一年一月  
大正十一年一月  
大正十一年一月  
大正十一年一月  
大正十一年一月  
大正十一年一月

大日本  
 大日本  
 大日本

大日本

大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本

大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本

大日本

大日本  
 大日本  
 大日本  
 大日本

一、口之好もしぬき也

夫もあふちあひの  
心國をねむるまゝに  
弟もあふちあひ  
心國をねむるまゝに  
あふちあひのまゝ  
あふちあひのまゝ

一、口之好もしぬき也

夫もあふちあひの  
心國をねむるまゝに  
弟もあふちあひ  
心國をねむるまゝに  
あふちあひのまゝ  
あふちあひのまゝ

一、口之好もしぬき也

夫もあふちあひの  
心國をねむるまゝに  
弟もあふちあひ  
心國をねむるまゝに  
あふちあひのまゝ  
あふちあひのまゝ



一 弟を討てよと云ふは  
一 弟を討てよと云ふは

大付する人其夜有  
七つと打てよと云ふ  
と云ふは討てよと云ふ  
たりと云ふは討てよ  
なりと云ふは討てよ

命を討てよと云ふは  
命を討てよと云ふは

命を討てよと云ふは  
命を討てよと云ふは

命を討てよと云ふは

命を討てよと云ふは  
命を討てよと云ふは  
命を討てよと云ふは

右の如く

右の如く

右の如く

右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く

右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く  
右の如く

北村五郎

美作守

阿部守

阿部守

北村五郎

阿部守

美作守

阿部守

美作守

阿部守

美作守

阿部守

北村五郎